

1. 一般廃棄物焼却施設における高病原性鳥インフルエンザ発生に備えた防疫演習

奈良県家畜保健衛生所

○西野 治 野上 真

高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）防疫演習を平成 27 年 10 月に実施。県内 A 市の一般廃棄物処理施設（焼却施設）での作業動線の検討と確認、焼却試験、市町村職員向け演習を行った。作業動線は、家畜防疫員と A 市担当者、焼却施設管理者による事前協議で、焼却施設に既存の小型ホイストを利用して焼却炉投入口（ホッパ）まで運搬する経路を採用。殺処分鶏または卵の入った医療廃棄物専用密封容器（密封容器）を用いた運搬作業では問題なかったが、ホッパへの投入作業では作業員の落下防止対策の必要性を確認。焼却試験では 1 回あたり平均 471kg の一般廃棄物投入に対して、密封容器 2 箱（平均 41kg）を平均 23.9 分間隔で 10 回投入。この時、密封容器の破損は認められなかった。平均混合率は 7.99%で、試験前後の公害防止基準項目等 6 項目の測定データから、密封容器を投入しても燃焼状態に変化がないことを確認。これより、1 万羽規模の採卵鶏農場発生時に焼却に要する時間は、殺処分鶏のみで 5.18 日、卵・飼料も合わせると 6.89 日と試算。この結果を踏まえ、HPAI 発生時の汚染物品等の焼却処理に関する協定を A 市と締結。市町村職員向け演習は 13 名が参加し、講習会と作業動線を中心とした焼却施設見学を実施。さらに防疫作業全般の理解も深めるために自由記述形式での疑問点等の掘り起こしと回答書の送付も行った。継続により、防疫作業への理解を醸成するとともに A 市以外にも同様の取組を広めることが重要。